

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/03/01

米景気回復期待と円相場に注目

| 通貨ペア | 基調 | | ページ数 |
|---------------|----|--|------|
| <u>豪ドル/円</u> | ↑ | 高値警戒感の漂う中で株価にらみ 予想レンジ: 81.20 ~ 93.20 円 | 2-3 |
| <u>NZドル/円</u> | ↑ | RBNZの利上げ開始時期を探りながら 予想レンジ: 63.00 ~ 71.00 円 | 4-5 |
| <u>ランド/円</u> | ↑ | SARBと主要国の株価をにらみながら 予想レンジ: 10.20 ~ 11.30 円 | 6-7 |

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



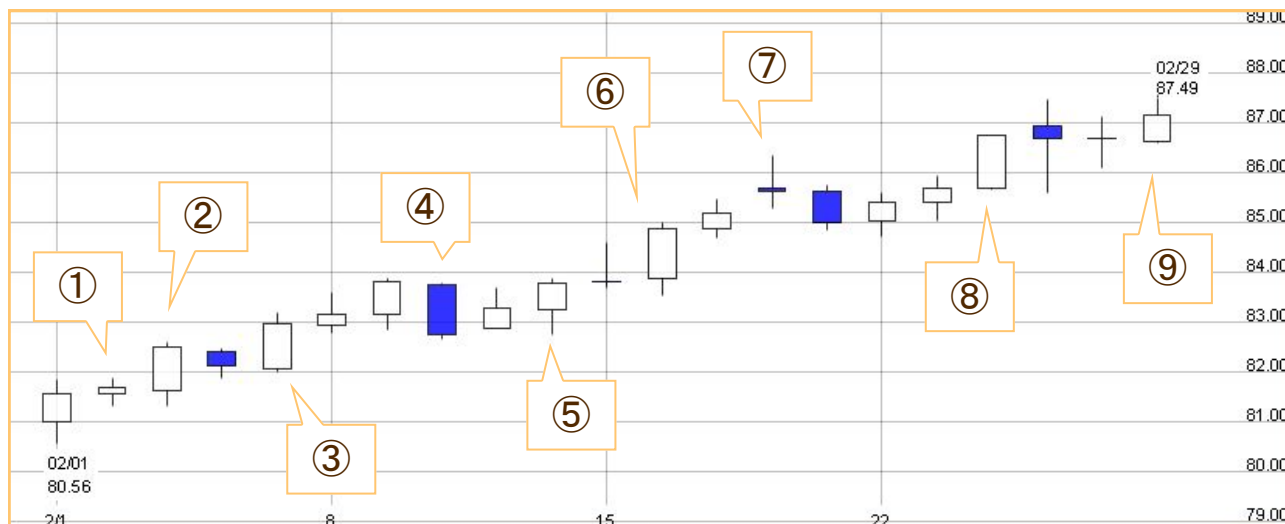
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 2月の推移

| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 四本値 | 80.99円 | 87.49円 | 80.56円 | 87.14円 |



- ① 2日、アジア株が軒並み強含む中、豪12月貿易収支が17.09億豪ドルの黒字と予想(12.00億豪ドル黒字)を上回った事を受けて、豪ドル/円は81.88円まで上昇した。
- ② 3日、米1月失業率が8.3%(前回8.5%)、非農業部門雇用者数が24.3万人増(同20.3万人増)と、予想(8.5%、14.0万人増)よりも強い結果となり、時間外のNYダウ先物が急上昇し豪ドル/円は急騰した。
- ③ 7日、0.25%利下げ予想が優勢の中、豪準備銀行(RBA)は金利据え置きを決定。予想外の結果を受けて豪ドル/円は急騰。同時発表の声明文では「需要が弱まれば、インフレ動向からみて緩和余地がある」としたものの、「当面、現在の政策は適切と判断」との見方を示した事も、豪ドル買いに作用した模様。
- ④ 10日、RBA四半期金融政策報告で、2012年のインフレ率を3%(前回11月時点では3.25%)、GDP成長率を3.5%(同4%)、2012年6月までの基調インフレ率見通しを2.25%(同2.50%)に、それぞれ引き下げた。これを受け、豪ドル/円は弱含みで推移した。
- ⑤ 14日、日銀による予想外の10兆円規模の追加金融緩和を受けて円売りが強まった事などを背景に、豪ドル/円は上昇した。
- ⑥ 16日、豪1月失業率は5.1%、新規雇用者数は4.63万人増と予想(5.3%、1.00万人増)よりも強い結果を受け、豪ドル/円は40銭以上急騰するも、ギリシャのデフォルト懸念が根強い中では、上昇は一時的となった。だがNY市場でギリシャの政府筋から「ギリシャと国際支援機関は支援に必要な歳出削減の具体策で合意」と伝えられ、同国のデフォルト懸念が後退すると株高が進行し、豪ドル/円は上昇した。
- ⑦ 20日、前週末18日に中国当局が預金準備率の0.50%引き下げを発表し、銀行融資の増加を通じて流動性が強化されるとの見方から、豪ドル/円は前週末終値から50銭近く上昇してスタート。本邦1月貿易収支の大幅赤字を見越した円売りもあり、その後86.33円まで一段高となった。
- ⑧ 24日、スティーブンスRBA総裁が議会証言で「欧州債務懸念が世界成長を妨げる懸念が緩和した現在、政策金利は当面ほぼ適切」等と発言し、RBAの利下げ観測が後退。ドル/円が年初来高値を更新した事も重なり、豪ドル/円は値を上げた。
- ⑨ 29日、バーナンキ米FRB議長が「失業率は予想より早く改善している」と発言。これを受けたドル/円の急騰に連れて、豪ドル/円は2011年7月8日以来となる、87.49円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

2月の豪ドル/円相場は80.56円～87.49円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約7.7%の上昇(豪ドル高・円安)となった。米国の雇用状況の改善を背景に米景気回復期待が高まり、NYダウ平均が上昇した他、日銀の追加金融緩和などからくる円売りも重なると、豪ドル/円はほぼ一本調子での上昇が続いた。

3月の豪ドル/円相場は、米国をはじめとする主要国の株価動向がポイントとなりそうだ。ギリシャ向け第2次支援問題がヤマ場を越えたことで、同国が無秩序なデフォルトに陥る懸念は後退。一旦、市場の関心が欧州債務問題から米景気の回復具合に移ろうとしている。今年に入り堅調な米経済指標が相次いだ事を受け、米景気回復期待が浮上してNYダウ平均が堅調に推移しており、今月も予想より強い米経済指標が相次ぐようだと、株高を背景に豪ドル/円は上昇トレンドが続きそうだ。

豪国内を見ると、月前半に重要な経済指標の発表が相次いで予定されているが、その中でも6日のRBA キャッシュターゲットに注目したい。先月のRBA議事録やRBA総裁の議会証言にて、現在の政策金利が適切であるとの認識が示された事を受け、同国の利下げ観測は大きく後退。今回、市場では政策金利の据え置き予想が主流のため、RBAの次の一手を読む上で同時に発表される声明文に注目が集まりそうだ。その他、先月は本邦の金融緩和や貿易赤字を背景に、円売りが強まったことも豪ドル/円上昇の一因に挙げられ、本邦の2月貿易収支や1月経常収支にも注目したい。また、年度末決算を控えて本邦輸出筋が円買いを進めるようだと、豪ドル/円には下押し圧力がかかる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 81.20～93.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

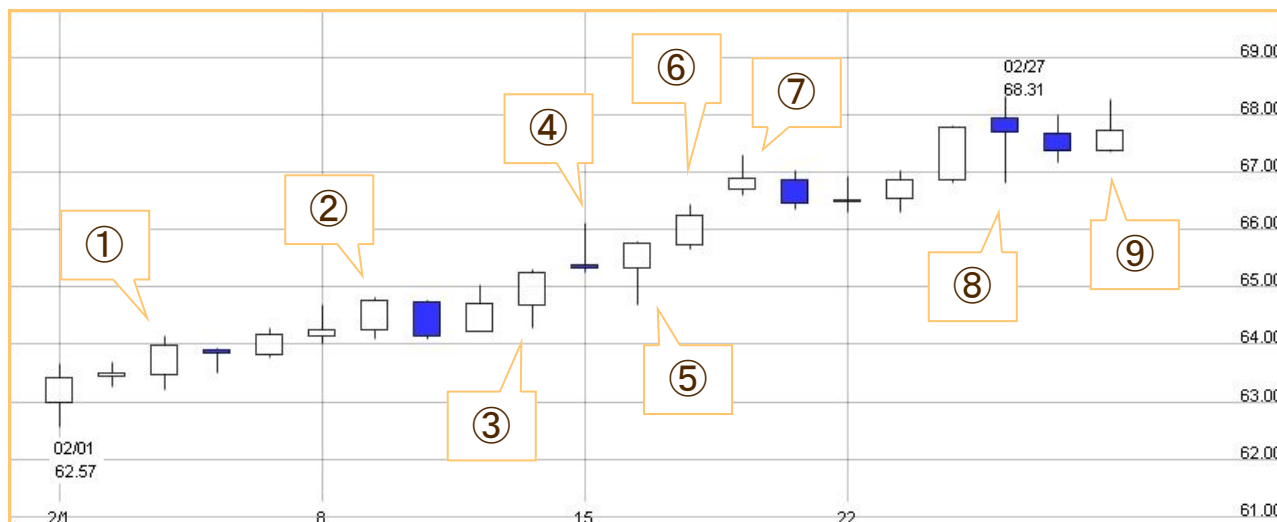
| 日付 | 経済指標、イベント等 | 日付 | 経済指標、イベント等 |
|--------|----------------|---------|---------------------|
| 3/1(木) | 第4四半期豪民間設備投資 | 3/9(金) | 1月豪貿易収支 |
| | 1月豪住宅建設許可件数 | | 2月中国消費者物価指数 |
| | 2月米ISM製造業景況指数 | | 2月米雇用統計 |
| | ユーロ圏首脳会議 | 3/13(火) | 日銀金融政策決定会合(12日～) |
| 3/2(金) | EU首脳会議 | | 2月米小売売上高 |
| 3/5(月) | 2月米ISM非製造業景況指数 | | 米FOMC政策金利発表 |
| 3/6(火) | 第4四半期豪経常収支 | 3/15(木) | 3月米ニューヨーク連銀製造業景気指数 |
| | RBAキャッシュターゲット | 3/16(金) | 2月米消費者物価指数 |
| 3/7(水) | 第4四半期豪GDP | | 3月米シカゴ大消費者信頼感指数・速報値 |
| | 2月米ADP全国雇用者数 | 3/20(火) | RBA議事録 |
| 3/8(木) | 1月日経常収支 | 3/22(木) | 2月日通関ベース貿易収支 |
| | 2月豪雇用統計 | 3/30(水) | 3月米シカゴ購買部協会景気指数 |
| | 欧州中銀金融政策発表 | | |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 2月の推移

| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 四本値 | 63.00円 | 68.31円 | 62.57円 | 67.72円 |



- ① 3日、米1月失業率が8.3%(前回8.5%)、非農業部門雇用者数が24.3万人増(同20.3万人増)と、予想(8.5%、14.0万人増)よりも強い結果となり、時間外のNYダウ先物が急上昇しNZドル/円は急騰した。
- ② 9日、NZ第4四半期失業率が6.3%(前回6.6%)と予想(6.5%)よりも強い内容となった。しかし、労働参加率が68.2%と、前回(68.4%)から低下した事を受け、市場では「職探しをやめる人が増えた事が理由で失業率が低下した」との見方が広がった。このため、NZドル買いの動きは限られた。
- ③ 14日、日銀による予想外の10兆円規模の追加金融緩和を受けて円売りが強まった事などを背景に、NZドル/円は上昇した。
- ④ 15日、NZ第4四半期小売売上高が前期比+2.2%と予想(+1.2%)を大きく上回った。これを受け、NZドル/円は前日終値(65.24円)から20銭弱上昇して取引が始まった。その後65.52円まで値を上げた。
- ⑤ 16日、NZ財務省は世界経済の見通し引き下げや、クライストチャーチの震災復興の遅れを理由に、2013年3月までの1年間の経済成長予想を2.8%と、昨年10月時点(3.4%)からの引き下げを発表した。ただ、2014/15年度の財政黒字化見通しは維持されており、市場の反応は薄かった。
- ⑥ 17日、ボラードRBNZ総裁は「NZの経済動向が他国と比べ過小評価されている可能性がある」「NZ経済はある意味、考えられているよりも良好」と発言。これを背景にNZドル買いが強まった。
- ⑦ 20日、前週末18日に中国当局が預金準備率の0.50%引き下げを発表し、銀行融資の増加を通じて流動性が強化されるとの見方から、NZドル/円は前週末終値から40銭超上昇してスタート。本邦1月貿易収支の大幅赤字を見越した円売りもあり、その後67.30円まで一段高となった。なお、17日に国際投信投資顧問が「グロソブ」にNZドルを組み入れると発表した事も、上昇の背景にあった模様。
- ⑧ 27日、本邦の貿易赤字をはやした円売りの他、G20財務相会合後の会見での周小川・中国人民銀行総裁が「中国は国際通貨基金(IMF)資金枠増強で役割を果たす」などと発言した事も重なり、NZドル/円は昨年8月1日以来となる68.31円の高値を記録。なお同日早朝に発表されたNZ1月貿易収支は1.99億NZドルの赤字と予想(1.67億ドルの黒字)より弱い結果となったが、市場の反応は限られた。
- ⑨ 29日、バーナンキ米FRB議長が「失業率は予想より早く改善している」と発言。これを受けたドル/円の急騰に連れて、NZドル/円は68.27円まで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

2月のNZドル/円相場は62.57円～68.31円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約7.6%の上昇(NZドル高・円安)となった。米国の雇用状況の改善を背景に米景気回復期待が高まり、NYダウ平均が上昇した他、日銀の追加金融緩和などからくる円売りも重なると、NZドル/円はほぼ一本調子での上昇が続いた。

3月のNZドル/円相場は、米国をはじめとする主要国の株価がカギとなりそうだ。2月にはユーロ圏財務相がギリシャ向け第2次支援で合意した事により、同国が無秩序なデフォルトに陥る懸念が後退。一方、米国では景気回復期待を背景にNYダウ平均が13000ドルの大台を突破するなど、市場の関心は欧州から米国へと移ろうとしている。米経済の中で回復が遅れている雇用や住宅分野での改善期待が高まるようだと、株高を背景にNZドル/円が強含む可能性がある。

NZ国内を見ると、7日にRBNZオフィシャル・キャッシュレートの予定されている。市場では政策金利据え置きが広く予想されており、その際に発表される声明に注目したい。足元の経済状況を見ると、RBNZが金利を据え置く理由の一つである欧州債務懸念が和らぐ中、米株をはじめとする主要国では株高が進行し、NZ国内では雇用や小売が改善してきている。本稿執筆時点でのRBNZの利上げ開始時期についてのエコノミスト予想では、今年12月との見方が多い。声明を受けてこの時期が前倒しになるとの見方が市場で強まるようだと、利上げ期待を背景にNZドルが買われる展開もありそうだ。

その他、先月は本邦の金融緩和や貿易赤字を背景に、円売りが強まったこともNZドル/円上昇の一因に挙げられ、本邦の2月貿易収支や1月経常収支にも注目したい。また、年度末決算を控えて本邦輸出筋が円買いを進めるようだと、NZドル/円にも下押し圧力がかかる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 63.00～71.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

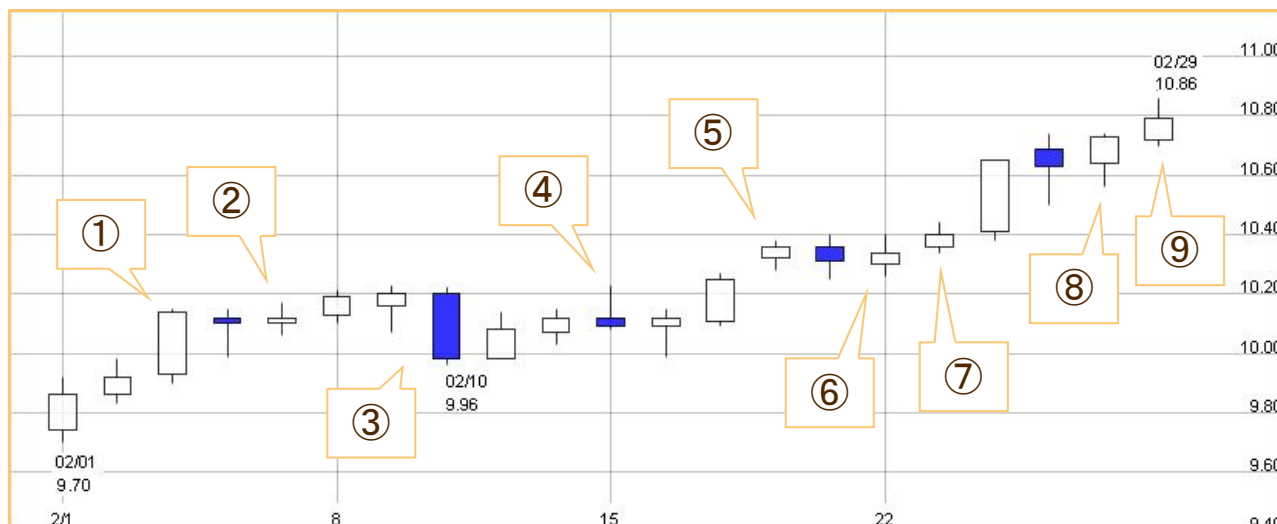
| 日付 | 経済指標、イベント等 | 日付 | 経済指標、イベント等 |
|--------|--------------------|---------|----------------------|
| 3/1(水) | 2月米ISM製造業景況指数 | 3/13(火) | 日銀金融政策決定会合(12日～) |
| | ユーロ圏首脳会議 | | 2月米小売売上高 |
| 3/2(金) | EU首脳会議 | | 米FOMC政策金利発表 |
| 3/5(月) | 2月米ISM非製造業景況指数 | 3/15(木) | 3月米ニューヨーク連銀製造業景気指数 |
| 3/7(水) | 2月米ADP全国雇用者数 | 3/16(金) | 2月米消費者物価指数 |
| | RBNZオフィシャルキャッシュレート | | 3月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値 |
| | 第4四半期NZ製造業売上高 | 3/21(水) | 第4四半期NZ経常収支 |
| 3/8(木) | 1月日経常収支 | 3/22(木) | 第4四半期NZGDP |
| | 欧州中銀金融政策発表 | | 2月日通関ベース貿易収支 |
| 3/9(金) | 2月中国消費者物価指数 | 3/26(月) | 2月NZ貿易収支 |
| | 2月米雇用統計 | 3/30(水) | 3月米シカゴ購買部協会景気指数 |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 2月の推移

| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 |
|-----|-------|--------|-------|--------|
| 四本値 | 9.74円 | 10.86円 | 9.70円 | 10.79円 |



- ① 3日、米1月失業率が8.3%、非農業部門雇用者数が24.3万人増と予想(8.5%、14.0万人増)よりも強い結果となり、時間外のNYダウ先物の急上昇を背景にランド/円は10円台に乗せると、引け間際には10.15円まで値を伸ばした。
- ② 7日、南アフリカ第4四半期失業率が23.9%と予想(24.8%)よりも強い結果となり、2009年第2四半期以来の水準に低下。しかし、ランド/円相場の反応はほとんど見られなかった。
- ③ 10日、ギリシャの連立与党の国民正統派運動党首が、同国向け第2次支援獲得に必要な経済改革案の議会承認で「賛成票を投じる事はできない」との見解を示した事などを受け、ギリシャ情勢への懸念から欧州株が下落すると、ランド/円は値を下げた。
- ④ 15日、南ア12月実質小売売上高が前年比+8.7%と予想(+6.5%)よりも強い結果となった事が好感され、ランド/円は小幅に値を上げた。
- ⑤ 20日、前週末18日に中国当局が預金準備率の0.50%引き下げを発表し、銀行融資の増加を通じて流動性が強化されるとの見方からクロス円が上昇した他、本邦1月貿易収支の大幅赤字を見越した円売りも重なり、ランド/円は前週末終値から10銭弱上昇してスタート。欧州市場に入り、ユーロ圏財務相会でギリシャ支援が承認されるとの期待が高まり、欧州株が上昇。これを背景にランド/円は10.38円まで一段高となった。
- ⑥ 22日、南ア1月消費者物価指数は前年比+6.3%(前回+6.1%、予想+6.2%)と3カ月連続で南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3~6%)を上回ったが、市場は反応薄。その後、ゴードン南ア財務相は予算教書にて、2012年の国内総生産(GDP)見通しを+2.7%と、昨年10月に示した+3.4%から下方修正した。だが、2011/12年の財政赤字予測は対GDP比で4.6%と、昨年10月に示した5.5%より低下すると見通しを示した事が好感され、ランド/円はわずかに値を上げた。
- ⑦ 24日、本邦輸入企業のドル買いや、円先安観を背景とした思惑的な円売りを受けて、ドル/円が上昇したことを背景に、ランド/円は上昇。引け間際には10.65円まで値を上げた。
- ⑧ 28日、南ア第4四半期国内総生産(GDP)が年率換算で+3.2%と予想(+3.1%)を上回り、前回数値も上方修正(+1.4%→+1.7%)されたが、市場の反応は限定的であった。
- ⑨ 29日、バーナンキ米FRB議長が「失業率は予想より早く改善している」と発言。これを受けたドル/円の急騰に連れて、ランド/円は2011年9月7日以来となる、10.86円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

2月のランド/円相場は9.70円～10.86円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約11.0%の上昇(ランド高・円安)となった。米国の雇用状況の改善を背景に米景気回復期待が高まり、NYダウ平均が上昇した他、日銀の追加金融緩和などからくる円売りも重なると、ランド/円はほぼ一本調子での上昇が続いた。

3月のランド/円相場は、NYダウ平均を始めとした株価動向がカギとなりそうだ。先月、NYダウ平均は米景気回復期待を背景に、2008年5月以来となる13000ドルを突破。ギリシャ問題が当面のヤマ場を越えたことで、市場の関心が欧州債務問題から米国の景気回復期待に移った事も、株高の背景にあると推測される。NYダウ平均は月足で見ると5カ月連続で陽線引けとなり、高値警戒感が出ているものの、その中で上伸できれば、リスクを積極的に取る動きが強まり、ランド/円は一段高が予想される。

南ア国内をみると、29日にSARB金融政策発表が予定されている。市場では金利据え置きが広く予想されており、その際に発表される声明に注目が集まりそうだ。先月発表された経済指標をみると、失業率の改善や小売の上昇が示され、インフレ率は高止まりが続いている。更に欧州債務問題が一旦は落ち着く気配を見せたことで、南アの利下げ観測は後退したとみられる。今回の声明にて、同国の次の一手が利上げであるとの見方が市場で広がれば、ランド/円買いが強まる可能性がある。

ただ、ランド/円もまた豪ドル/円やNZドル円と同じく、先月は調整らしい下げがないままに上昇した。今後、何らかのきっかけで高値警戒感が強まり、調整局面入りとなる事も否定できない。(川畑)

(予想レンジ:10.20～11.30円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

| 日付 | 経済指標、イベント等 | 日付 | 経済指標、イベント等 |
|---------|------------------|---------|----------------------|
| 3/1(木) | 2月米ISM製造業景況指数 | 3/13(火) | 米FOMC政策金利発表 |
| | ユーロ圏首脳会議 | 3/14(水) | 1月南ア実質小売売上高 |
| 3/2(金) | EU首脳会議 | 3/15(木) | 3月米ニューヨーク連銀製造業景気指数 |
| 3/5(月) | 2月米ISM非製造業景況指数 | 3/16(金) | 2月米消費者物価指数 |
| 3/7(水) | 2月米ADP全国雇用者数 | | 3月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値 |
| 3/8(木) | 1月日経常収支 | 3/19(月) | 第4四半期南ア経常収支 |
| | 欧州中銀金融政策発表 | 3/22(木) | 2月日通関ベース貿易収支 |
| 3/9(金) | 2月中国消費者物価指数 | | 2月南ア消費者物価指数 |
| | 2月米雇用統計 | 3/29(木) | 2月南ア生産者物価指数 |
| 3/13(火) | 日銀金融政策決定会合(12日～) | | 南ア政策金利発表 |
| | 2月米小売売上高 | 3/31(土) | 2月南ア貿易収支 |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。